

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：総合型選抜） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論、小論文、個別面接）
<p data-bbox="220 369 351 403">〈1次選考〉</p> <p data-bbox="220 459 1404 593">総合型選抜入試では、地域創生学群への理念に共感し、地域社会の諸課題への強い関心を持ち、自ら主体的に解決に取り組もうとする学生を求めている。</p> <p data-bbox="220 649 1404 873">1次選考の集団討論では、提示された課題を正しく理解し、それに対する自らの考えと他者との積極的な議論を通じて深め、協働して課題の整理や結論に導くことに貢献できるかどうか、受験生一人ひとりの力を評価した。</p> <p data-bbox="220 929 1404 1243">2026年度の総合型選抜1次選考における集団討論では、試験当日に同一の課題を提示した。今回は、「高校3年生が小学4年生を対象に『まちづくりってなあに？』というテーマで、全4回の授業を行うことを想定し、どのような内容で授業を行うかを話し合い、グループとしての結論をまとめ表に記入する」ことを求めた。</p> <p data-bbox="220 1299 1404 1612">評価の観点としては、知識量の多寡ではなく、他者と協働して課題解決に向かう力を重視した。具体的には、相手の意見を尊重し、傾聴と明確な自己表現を通して建設的な対話を行う姿勢を評価対象とした。また、情報を的確に整理し、課題の本質を捉えて提案を構築する思考力・判断力、さらに限られた時間内で合意形成を図り、結論へと導く協働力を重視した。</p> <p data-bbox="220 1713 351 1747">〈2次選考〉</p> <p data-bbox="220 1803 1404 2027">総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心を持ち、地域の方々等と協働して主体的に課題解決に取り組むことができる学生を求めている。</p>	

2次選考の小論文では、社会課題に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。

■個別面接について

地域創生への強い関心および地域創生学群で学ぶ強い意欲を有しているか、これまで主体的に活動してきたことやそこから得た学びをわかりやすく説明できるか等を重要な評価基準とした。また、面接官との質疑応答において、質問の意図を理解した上で自らの考えを適切に表現できているか評価した。

■小論文について

今回の小論文試験の出題文は、地域創生に関連すると考えられる文章のうち、次の2点を念頭に置きながら選定した。1点目は、地域創生においては地域社会が直面する課題を的確にとらえる力が必要であると考えことから、課題の構造を読み解くことに関連するような文章であること、2点目は、比較的平易な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は、田中元子(2017)『マイパブリックとグランドレベルー今日からはじめるまちづくり』晶文社、の該当箇所を出題文として選定した。

設問は「以下の文章を読み、筆者の主張について批判的観点から400字以内で論じなさい。」とし、課題を的確に理解し、自らの考えを論理的に展開・表現する力を測定した。

本設問では、公共に対する固定的な理解を問い直し、多様な公共のあり方を踏まえながら、批判的に思考・表現する力を問うものである。まず、出題文に示された筆者の主張の核心を正確に把握し、その論理構造や前提を丁寧に読み解くことが第一段階となる。次に、筆者の主張を無批

判に受け止めるのではなく、その前提や視点の限界、含意される課題を論理的に指摘することが求められる。その上で、自らの立場を明確にし、筆者の議論を補完または対置する形で、自らの思考を展開することが期待される。

筆者の主張を的確に把握し、その前提や限界を批判的に検討した上で、自らの立場を論理的に展開し、筆者の議論を補完・対置する思考を示すことができている答案を高く評価した。